

学生のアルバイト活動における向社会的モチベーションの研究
－自律的側面と統制的側面が与える影響－

伊藤誠悟ゼミナール
経営学科 4年 川島 梨華

論文の要旨

本稿では、先行研究に沿って学生のアルバイト活動における向社会的モチベーションは統制的側面と自律的側面で構成されているのかどうか。また、その2つの側面は心理や態度に異なる影響を与えるのかどうかを調査・分析している。4年制の大学生・専門学生・短大生の学生を対象にアンケートフォーム調査によって収集したデータを用いた。調査・分析における比較対象はフルタイム正社員としている。

結果、学生のアルバイト活動において生じる向社会的モチベーションは、フルタイム正社員と同様に自律的側面と統制的側面で構成されるということが判明した。労働時間や雇用形態に関わらず、周辺他者の存在する環境下では自律的側面と統制的側面といった調整スタイルの違いが見られると推測している。

考察においては、アルバイト活動を行うなかで幅広い年齢層の方とのかかわりや責任感の発生、自分とは異なった価値観を持つ人と協力することなど様々な経験を積む。そこで、向社会的モチベーションにおける自律的側面だけでなく統制的側面が発生または発達したのではないかと検討している。または他者を助けずにはいられないと感じ、多くの負担を引き受けることによって抱く過重負荷やストレスから統制的側面が発生したのではないかと検討している。

さらに、アルバイトで働くことと組織で個人が社員として働くことの共通点を挙げ、向社会的モチベーションが大学生におけるアルバイト活動でも二側面に分けられたことを検討している。

ならびに、学生のアルバイト活動において生じる向社会的モチベーションの自律的側面はウェルビーイングを高め、統制的側面はイルビーイングを高める効果があることも明らかとなった。

向社会的モチベーションの自立的側面はポジティブな心理的状态を生むことはあるものの、ネガティブな心理的状态を緩和するといった効果は持ち合わせておらず、統制的側面はネガティブな心理的状态を生むことはあるものの、ポジティブな心理的状态を減衰させる効果は持ち合わせていないと結論づけている。